

～心と体をきたえる耐力・体力づくりをめざす！～

## 放課後はつかいち寺子屋塾（大野西子ども教室，大野東子ども教室）【廿日市市】

### 教室の概要

※廿日市市は、市独自で事業を実施されています。

旧大野町に設置され、子どもの自主的な活動を広く支援してきた“大野子ども体験活動・ボランティア活動支援センター見守り隊”（地域住民からなるボランティアの支援者。以下「見守り隊」）が中心となり、大野地域の2つの小学校に放課後子ども教室（放課後はつかいち寺子屋塾）を設立した。

異年齢集団の中でのコミュニケーションや地域住民との交流を経て、子どもたちが地域社会の中で心豊かに健やかに育まれる環境づくりを推進している。

実施校区・開始年度	廿日市市立大野西小学校(平成19年度)	廿日市市立大野東小学校(平成20年度)
開催場所	大野西小学校 図書室	大野東小学校 図書室
開催日・時間	水：放課後～17:00 金：放課後～17:00	火：放課後～17:00 木：放課後～16:30
開催日数	112日(平成23年度は週3日開催)	55日
参加学年・参加人数	小学校1～3年生 平均18人	小学校1～3年生 平均19人
コーディネーター人数	1人(兼任)	
ボランティア人数	23人	19人
見守り隊全員が安全指導，学習指導を行う		

### 活動内容

ランドセルを背負ったまま、放課後に図書室に来る。

受付に連絡帳を出し、見守り隊と目と目、指と指を合わせて大きな声であいさつする。

チャレンジカードを受け取り、名札をつけてチャレンジ開始。

- ・風呂敷、くつひも、ロープの結び方、小刀で鉛筆を削る（手先の器用さを養う）
- ・百人一首や論語の暗唱、昔遊び（おはじき、けん玉など）
- ・ストレッチ（背筋力をつける）
- ・お箸の正しい持ち方とマナー（箸の取り方、豆をつかむ等）
- ・2～3年生の希望者は週1回、体育館でバドミントン（バドミントンがない日は運針）

チャレンジ終了後、カードにチャレンジした時間を書き込む。その後、宿題を30分でしっかり済ませる。

- ・時計を見て動く、宿題をする、ということを習慣づける。時間内に終わらない場合は連絡帳に書いて、続きは自宅でもらう。

チャレンジ、宿題が終わったらフリータイム。（ほとんどの子どもたちが読書をする）

終了30分前に道具を片付け、「遊ばせ隊」（放課後はつかいち寺子屋塾を卒業した児童を中心とする上級生）のお兄さん、お姉さんが考えた遊び、ゲームを行う。

- ・屋外…鬼ごっこ、ドッチボール等
- ・室内…机や椅子を使って障害物レース、玉入れ、大根抜き（子どもたちが腕を組んで輪になり、外側から上級生が引っ張るのに対抗する）、集団行動の練習（危機管理対策の一環）等々

終了5分前にチャレンジカード、連絡帳を遊ばせ隊から受け取り、ランドセルを持って整列する。

じゃんけんで決めたあいさつ係が見守り隊にお礼を述べ、遊ばせ隊の1人1人とタッチして別れる。

退室を見届け、遊ばせ隊が見守り隊にお礼を言って終了。

長期休業期間中（夏休み等）にも、耐力（がんばる力）づくりハイキングや工作教室等を実施している。

### 本日のチャレンジ きろく！

おはじき つかえたよ！	おはじき おすべたよ！
ごあいさつ ○△?	ひろしき ○△
もちかた ○△?	ひも ○△
つきみかた ○△?	くつひも ○△

## 運営上の工夫

- プログラムの企画・立案の工夫  
年度ごとに、その年に登録している子どもたちに合わせてプログラムを変更している。  
(体力がない子が多い年には、ストレッチのような軽い運動を取り入れるなど)
- スタッフ確保の工夫  
公募でスタッフを集めるのではなく、見守り隊のメンバーからの推薦を受け、趣旨に賛同してくださった方に支援をお願いしている。
- スタッフの自主研修の取組、スタッフ間の連携の工夫  
月に1度、活動内容の見直しや子どもたちの様子について情報交換を行い、スタッフ間の情報共有や子どもたちに接する態度の統一を図っている。
- 保護者との連携における工夫  
活動終了後に保護者のお迎えを義務付けている。活動中に子どもの様子で気になったことがあれば、連絡帳へ記入を行ったり、お迎えの際に保護者に報告したりしている。
- 学校との連携、その他の事業との連携  
開催日の通知を児童・保護者へ行う際には学校へも通知している。  
廿日市市では、市内の各小中学校への学校支援地域本部の設置を目指している。放課後子ども教室が開催されている2つの小学校にも学校支援地域本部が設置されており、昔遊びの際に、見守り隊が講師として協力するなどの連携を行っている。



～集団行動の練習  
(安全管理対策の一環)～

## 事業を実施して

### 【参加者の声】

(児童の声)

- ・ゲームが楽しいし、遊ばせ隊がやさしい。

(保護者の声)

- ・大人の話をしっかり聞けるようになった。
- ・目上の人に「ありがとう」ではなく「ありがとうございます」と言えるようになった。
- ・地域の中で育てていただき、子ども自身も人との関わりの中で成長できたことに感謝している。

(スタッフの声)

- ・大人になった時に当たり前のことが当たり前にできる人に育ててほしい、善いことと悪いことの区別をきちんとできるようになってほしい、良き社会人になってもらいたい、という願いから、してはいけないことをしたときには傍にいる大人が厳しく叱り、反対に何事にも一生懸命がんばっている姿には惜しみなく褒めることを心がけている。

### 【成果と課題】

核家族が多い中、地域の方々や上級生との交流は子どもたちの心をととても豊かにしている。特に上級生が「遊ばせ隊」として指導にあたることで、子どもたちは遊びを通して「がまん」や「仲間づくり」を自然に身につけることができている。

課題としては、見守り隊自身やその家族の高齢化、家庭環境の変化(孫の世話が必要になる等)などの理由により、見守り隊の人数を一定以上確保することが困難になると予想されていることである。今後は、特に若い世代に協力を呼びかけて行きたい。



～ゲーム・大根抜き～

